

スマイル・通信

笑顔あふれる須磨のまち

兵庫県議会議員

伊藤すぐる



令和6年6月号



百条委員会を設置！

兵庫県議会は元西播磨県民局長が作成した告発文書を巡る問題で、自民党議員団が主導し、ひょうご県民連合と議案を共同提案。

6月13日、閉会日において記名投票の結果、自民党議員団（34人）ひょうご県民連合（9人）共産党県議団（2人）無所属（5人）計50人が賛成、自民党議員団（1人）、維新の会県議団（21人）公明党県議団（13人）が反対、地方自治法100条に基づく調査特別委員会（百条委員会）の設置が賛成多数で可決された。翌14日、県議15人で構成し、文書で指摘された知事のパワハラ批判など7項目について調べる初会合が行われた。



可決へと流れを変えた爆弾質疑！

ハラスメント撲滅に対する県の取り組みについて

■ **伊藤**：ハラスメント撲滅に対して県ではどのような取り組みを行っているのか、公益通報制度を含め、現在、その相談窓口としてどのようなものがあり、機能しているのか。特に、県民との繋がりが深いと考えられる警察や学校関係でのハラスメント撲滅に対してどのような取り組みを行っているのか伺う。

■ **齋藤知事**：職員が能力を最大限に発揮するには、風通し良くハラスメントのない職場環境づくりが大切であり、ハラスメント防止指針を策定し防止に関して所属長と職員の責務を明確にしている。相談先として所属長、各部の総務担当課、職員相談員他、人事課直行メールや公益通報窓口を職員に周知、相談先や相談方法の選択ができる環境も整えている。教育委員会や県警においては、防止指針を独自で設定し、実情に応じた研修の実施や相談窓口を設置している。さわやか提案箱へのハラスメントに関する意見は、令和5年4月から6年2月末までの間で4件、3月以降、ハラスメントに関する意見が18件届いている。今後、公益通報制度の相談窓口の外部への設置を検討し、他府県や民間企業の取り組みを参考に健全な職場環境づくりに取り組む。

■ **伊藤**：ハラスメント関係が18件とのことだが、文書問題関係をトータルすると90件の相談が入っている。内訳は第三者委員会人選等に関するもの29件、当局調査の客観性等に関するもの20件、知事に関するもの19件、100条委員会設置に関するもの17件、副知事に関するものが4件であった。知事が内部調査の結果で行った処分自体が大きなパワハラに当たり、すべてがハラスメントと関係している。即刻、元西播磨県民局長の処分の取り消し、産労次長の女性職員への謝罪を第三者委員会の設置前に行うべきである。

■ **齋藤知事**：人事課において懲戒処分に関する調査を行い、調査結果は適切であると考えており、現時点で撤回等は考えていない。

■ **伊藤**：第三者委員会、100条委員会での調査結果が内部調査の結果と異なり処分が不当なものであるとの結論が出た場合、どのように責任をとるのか。

■ 齋藤知事：仮定の質問には答えられない。

■ 伊藤：すでに内部調査の結果自体が仮定の話になっており、それを根拠とした処分こそ許されないハラスメントであると指摘しておく。

県職員の育成と役割について

■ 伊藤：県職員の現場は県庁舎であり、そこで県民と直接対話を重ねる基本姿勢を実践、徹底していくことで県民本位の意識が浸透し、幅広い経験、分野を超えた多角的な視野を持つ職員の育成に繋がると、昨年9月定例会で私の質問に対して答弁されたが、県庁舎の建て替え整備は白紙、4割出勤で直接対話の機会を得ない職員が、どのように資質を上げていくことが出来ると考えているのか。

■ 齋藤知事：躍動する兵庫の実現に向けては、県民の声を聞き、信頼に応えていくボトムアップ型県政を推進する必要がある。テレワーク等の新しい働き方を進める中でも県民との対話の重要性は変わらない。現在、繁忙期におけるモデルオフィスでのトライアルを行い職員の声も聞き取り、課題検証を行っている。今後検討会を設置し、県庁舎のあり方については柔軟に検討していきたい。

副知事の役割について

■ 伊藤：豊富な行政経験を基に知事や職員をサポートし、助言していくのが副知事の重要な役割である。そこで改めて副知事としての役割について、また目指すべき副知事のあるべき姿について、片山副知事の見解を伺う。

■ 片山副知事：副知事の職務は知事を補佐すること。政策及び企画をつかさどること、職員の担当する事務を監督すること等が規定されている。知事が目指す行政目的が達成できるよう調整を行うのが役割である。

■ 伊藤：議会運営委員長、自民党執行部に相談に行かれた内容は？

■ 片山副知事：議会との調整は多岐にわたり具体的に何についてかを示さなければ答えられない。

■ 伊藤：ご自身で述べるべきだが「自分が全責任を負い辞職する代わりに100条委員会をやめてください」との相談ではなかったのか。しかも、決議方法まで提案されたと、自民党議員団総会で議運委員長、執行部から説明を受けた。それが副知事の仕事か？

■ 片山副知事：第三者委員会が設定される中、その動きを見てほしいとの思いから考え方を述べた。100条委員会設置は、議会において判断することであり、それ以上の意図はないが、覚悟を持って話をしなければいけないと思いそう述べた。

■ 伊藤：相談して良い内容と悪い内容がある。議会運営に関し、覚悟は持っていたかもしれないが、辞任を条件に100条委員会設置否決のお願いに行くのが副知事の仕事か？知事に伺う。

■ 齋藤知事：その事実を今、初めて聞いたが副知事は様々な議案の調整等に関して、議会側と折衝を行うのが仕事だ。第三者委員会を設置し、調査を進める県の思いを一定の覚悟を持って、折衝とさせていただいた。私としてはそれが副知事の業務の一環とし、本人が判断されたと考える。

■ 伊藤：片山副知事は就任時「もう一度兵庫で暮らすすべての人のために頑張ろうと決意をしました。37年間勤めた兵庫県庁に恩返しをしないといけない」と述べられた。今の状況は「恩返しじゃなく恩を仇で返している」しっかりと考えてください。齋藤知事は選挙中「兵庫県恥ずかしい。子供たちからそんな声が出ています。私はこの状態を必ず変える。すべての兵庫県民が、兵庫県が大好きで、誇りに思っています。と必ず言ってもらえるように」と述べられた。代表質問の放送を見た子供が「何？コーヒーマーカー、スキーウェア？恥ずかしい」って言っていました。今、兵庫県を恥ずかしくしているのは知事である。これで終わります。

※他の質問項目については、次号に掲載させていただきます。

ご意見・ご感想をお聞かせ下さい。

伊藤すぐる事務所

〒654-0076 神戸市須磨区一ノ谷町 2-8-6 TEL.078-736-2858

兵庫県議会議員控室

〒650-8567 神戸市中央区下山手通 5-10-1 TEL 078-362-3723 FAX 078-351-0772

Eメール hyogokengikai.ito.suguru@gmail.com

兵庫県議会ホームページにて
議会の録画映像が観られます。

